

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873100560		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	川西ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県川西市出在家町22-7		
自己評価作成日	2021/7/1	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、認知症の進行緩和、心身状態に合わせたケアを心掛けております。医療機関との連携を図り、その人らしく暮らしを続けることを支援しております。馴染みの関係、家族の思いを大切に、看取りも受け入れております。誤嚥性肺炎を予防するために、口腔ケアを徹底し、経口摂取で食事を召上りがて頂くよう取り組んでおります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通の便がよく生活に便利な立地である。利用者の希望や嗜好に配慮した手作りの食事を提供し、家庭的な雰囲気を大切にしている。システムの活用により、介護計画内容の職員への周知、計画に沿った実施記録、モニタリングが行われ、計画内容と記録のつながりが明確になるように工夫している。利用者個々に「介護援助計画表」を作成して、詳細な介護の手順や留意点を共有し、現状に即した個別性のあるケアやコミュニケーションが図られている。オンライン電話やドア越しの面会等、家族とのコミュニケーションがとれるよう支援している。訪問診療・訪問看護等と連携を密にして健康管理・早期対応に努め、また、訪問歯科の活用により口腔ケア・誤嚥性肺炎予防等に努めている。家族の思いを大切にして、看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に「私たちは世界一のしあわせ創造企業を目指します」を掲げ、認知症ケアを追求しております。	法人の理念・基本方針を共有するとともに、事業所として具体的な「目標」を掲げ、「地域で安心して暮らせる」という地域密着型サービスの意義・目的等を明文化している。理念・基本方針・目標を事務所に掲示し、職員間の共有を図っている。	定期的に実践状況の振り返りを行う等、理念の実践に向け具体的にに取り組む仕組みづくりが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ影響により地域イベントは控えている状況。	通常は、買い物・外食・季節ごとの外出行事等、地域に出かける機会を設け、また、音楽療法・ギター演奏・歌・盆踊り等、定期的なボランティアの来訪があり、地域交流に取り組んでいる。令和2年度はこれらの外出や交流を休止し、ドライブを兼ねての花見、神輿の来訪(ドア越し)、近隣の畑を通じての住民との交流等、可能な範囲で地域との関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	困難事例の受け入れなどを積極的に行い、心身共に健やかな生活を送って頂けるよう多職種協働で行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や、地域包括支援センター職員の方々のご意見やご要望を伺い、それらを職員と共有することでサービスの質向上に努めています。(コロナ影響により書面でお知らせしております)	例年は、家族・地域包括支援センター職員・事業所からの参加者を構成メンバーとし、1年に6回開催している。毎回、多数の家族の参加があり、会議での意見や情報をサービスや運営に活かせるように取り組んでいる。令和2年度は、書面会議で6回実施している。会議前に地域包括支援センターから電話により助言等を得て、利用者状況・行事・感染予防対策・面会対応等を記載した議事録を作成し、地域包括支援センター・全家族に郵送して報告している。玄関に議事録ファイルを設置して公開している。	・会議の構成メンバーに、知見者・地域代表者の参加、また、可能な範囲で、利用者の短時間参加を検討し、多方面からの意見をサービス向上に活かすことを期待します。 ・郵送する議事録と共に、意見・情報・質問等の返信欄を付け、返信内容を次の会議で共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。

川西ケアセンターそよ風

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で判断せずに、不明点は問い合わせを行い、実地指導においても実情を報告し相互理解を図っております。	運営推進会議を通して、地域包括支援センター職員との連携を図っている。市・地域包括支援センター・保健所等から新型コロナウイルス関連等の情報提供を受け、感染予防対策に反映している。公的支援を要する利用者の受け入れ等、相談や疑問があれば、高齢支援課等市の担当窓口から助言や回答を得て、適切な運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、防犯上のこともあり施錠しておりますが、センター内でも研修を行い、利用者の安全を図りながら自由な暮らしを支援しております。	法人共通の「身体拘束等の適正化のための指針」とマニュアルを整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を管理者・各フロアリーダーが参加して毎月実施し、身体拘束事例ゼロの確認と、言葉による行動制限を含む適正化のための検討を行っている。委員会の議事録を回覧し、職員への周知に努めている。「身体拘束適正化及び高齢者虐待防止」研修を年に2回実施し、参加できなかった職員にも資料を配布し、全職員に報告書の提出を促し周知を図っている。入職時にも研修を実施している。玄関は開錠操作が必要であるが、利用者に外出の意向があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように配慮している。	委員会での適正化に向けた検討内容について、議事録の職員周知を明確にする工夫が望まれます。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議にて研修を行い、ご家族様からの意見も反映させながら知識・意識向上と虐待の防止に努めております。	令和2年度は、上記身体拘束適正化と同様に、高齢者虐待防止について、マニュアル・委員会等を通じて意識向上を図り、不適切ケアの防止に取り組んでいる。身体的虐待だけでなく、言葉遣い・対応等についても、管理者層から注意喚起し、不適切ケアの防止に取り組んでいる。管理者層は相談しやすい関係づくりに努め、相談対応や面談の機会を設け、また、職員アンケートの活用や希望休・有給休暇取得の推進等、職員のストレス等がケアに影響しないように取り組んでいる。	「高齢者虐待防止」「権利擁護に関する制度」「プライバシー確保」「認知症ケア」等必要な研修について、令和2年度の研修実施が明確になる記録の工夫が望まれます。

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議研修にて学ぶ機会をもつと共に、成年後見人制度の必要性を理解し、情報提供が出来るよう取り組んでおります。	成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への状況報告や金銭管理書類の提供等、制度活用の支援を行っている。実務を通して学ぶ機会もあるが、理解については個人差がある状況である。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が対応し支援する体制がある。	
9		(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、契約時に重要事項説明書に沿った説明を行い、不安や疑問の解消を図っております。その都度質問に対してはお答えしております。	見学时に、パンフレット・料金表をもとに、サービス内容・利用料金・事業所の特徴等について説明している。契約時には、管理者が、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等をもとに説明し、文書で同意を得ている。特に看取り対応・医療連携等については、具体的にわかりやすい説明に努め、不安の軽減に努めている。契約書の内容改定時には、電話で家族に改定内容を説明し、基本的に文書で同意を得ている。契約の終了についても契約時に説明し、終了時には個別の状況に配慮して対応している。	
10		(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時などで要望聞くこと、ご意見箱の設置の他それらを各種会議にて共有し、ケアの向上を図っております。	利用者の意見・要望は、日々の会話の中で把握に努め、献立等に反映している。令和2年度は家族の面会が困難な状況であるが、主として電話やライン電話時に近況を伝え、また、写真付きで毎月手紙を郵送して利用者の様子を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。意見箱も設置している。把握した内容は、日常的な事項は「申し送りノート」で、内容に応じて「家族からのご要望」で共有し迅速な対応に努めている。家族からは面会に対する要望が多く、家族が利用者とライン電話で直接会話できるよう支援している。例年は、複数の家族が運営推進会議に参加し、家族が外部者へ意見等を表せる機会を設けている。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各種会議で状況の把握や検討の他、個人とも話す機会をもち運営に反映できるよう努力しています。	令和2年度は、全体会議の開催は休止状況にある。各ユニットで、概ね月1回ユニット会議を開催し、利用者対応についての情報共有・検討、業務についての意見交換等を行い、また、申し送り時や業務中にも意見・情報交換を行っている。内容は、申し送りノート・会議録で共有し、ケアや業務に反映している。管理者が定期的には年1回、また、随時にも個人面談を行い、個別に職員の意見等を聴く機会を設けている。職員アンケート・法人相談窓口等を活用し、職員が法人に意見を直接伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業部長に対して都度相談し、センター訪問して頂き職員と話す機会を作り、環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社でも年間研修を実施しており、センター内でも全体会議にて研修を活かし介護質向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内にて協議会参加し、サービス質向上のため情報交換行っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活歴を把握し、信頼関係築くことに努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場に立ち、まず傾聴を行っております。ご家族様の思いを尊重したうえでサービスの特色をお伝えし、関係作りに努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	診療情報確認、事前面談と入所判定会議において初期対応の見極めと支援に努めております。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手を尊重した声掛けと対応により、「利用者本位」「自立支援」という介護保険の根幹を意識して日々の生活を一緒にさせて頂いております。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	チームケアを推進していくうえで、ご家族様の思いなどは尊重させて頂いております。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の来訪・電話など以前の関係が継続できるよう、職員が間に入りながら支援しております。	入居時に把握した馴染みの人や場所に関する情報は、「基本情報」生活欄・「アセスメント表」生活歴欄等で共有に努めている。例年は、馴染みの人や場との関係継続のために、家族・友人等との面会や、買い物・外食等での馴染みの場所への外出を支援している。令和2年度は面会や外出が困難な状況であるため、家族とのライン電話の活用やドア越しの面会対応、暑中見舞い・年賀状のやり取り等で関係が継続できるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人生観・価値観がお一人ずつ違う中で、食事や余暇の時間など、心地よい距離感はどこにあるのかを意識して、関わり合いや支え合いに努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人とご家族の経過をフォロー、利用時の状況や介護の工夫、好みなどを伝え、連携がスムーズにいくよう配慮しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に多くの情報と意向を集め、カンファレンスにて「望む暮らし」「なりたい自分」は何かを検討し把握に努めております。介護計画書更新時に、家族様から得た情報を反映しております。	利用者の思いや暮らし方の希望・意向について、入居時に把握した内容は「アセスメント表」の本人の意向・趣味欄等にて記録している。入居後の日々のコミュニケーションで把握した内容は、タブレットの介護記録に入力して共有し、「アセスメント表」も基本的に1年ごとに更新している。思いや意向の把握が困難な場合は、表情や行動から汲み取り、家族からの意見や情報も参考にしながら、支援方法や介護計画に反映できるよう努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りの他、これまで関わっておられたケアマネージャーが居られればその方にも連絡を行い、これまでの暮らし方やサービス利用時の様子の把握に努めております。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活習慣やこだわりを大切にしてい、スタッフ間での報連相と情報の共有を行う事で、現状の把握に努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施するカンファレンスとミーティングを行い、ご本人とご家族の要望を反映させた介護計画が作成できるよう取り組みを行っております。計画作成担当者が策定し、ケアマネージャーが確認しています。その後、計画書を家族様に送り、内容を電話で説明後同意を得ております。	「フェイスシート(基本情報)」「アセスメント表」をもとに初回の「介護計画」を作成している。計画に沿って、食事・排泄等介護の手順や留意点を記載した「介護援助計画表」を作成している。見直しは、基本的に短期目標に合わせて3ヶ月ごとに行っている。日々のサービス実施状況は「モニタリングチェック表」に、生活状況等は「介護記録」に記録している。介護計画の閲覧、「モニタリングチェック表」への入力により、利用者個々の計画内容の周知を図り、計画に沿った実施状況を記録している。3ヶ月毎にシステム内でモニタリング総括表を作成し、評価を実施している。ユニット会議でケアカンファレンスを実施するとともに、見直し時には、「介護援助計画評価欄」、「モニタリング実践記録票」を用いての再アセスメントを基に担当者会議を実施し、現状に即した介護計画を作成している。利用者の意向等は見直し時に、家族の希望等はライン電話やドア越し面会時に把握に努めている。関係者の意見は、計画書に記載し計画に反映させている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人にとっての介護計画を作成するに当たり、ありのままを個人記録に記録、情報の共有を図る事で介護計画の見直しに役立てております。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携が必要な方が増えておられる中で入院される方も多いです。退院時などはご家族とも協議し、その都度生まれるニーズに柔軟に対応できるよう取り組みを行っております。		

川西ケアセンターそよ風

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により地域の催し事に参加はできおりませんが、畑を通じて近所の方と交流はあります。	
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の指示に迅速に対応できるよう職員間での連携は図っております、川西市のバイタルリンクの活用も行っております。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。2週間に1回、内科医による訪問診療と、希望者には訪問歯科・精神科等の往診を受けられる体制がある。他科受診等通院による受診は家族が同行することを基本とし、家族を経由して受診医に情報提供を行っている。往診・通院時の受診結果等は、「医療機関受診の記録」、訪問看護師とは「訪問看護師との連絡表」に記録として残し、情報共有と医療連携を図っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約を行い、24時間の連携を確保しております。よって早急な対応が行えご利用者の疾患や疾病を重症化させないよう努めています。	
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーはもちろん主治医の紹介状必要であれば依頼しております。退院時は、カンファレンスに参加し医療と介護の切れ目のないサービスを心掛けております。	入院時は、事業所から「看護サマリー」等で医療機関に情報を提供している。令和2年度は、面会が困難な状況であるので、主に介護支援専門員やフロアリーダーが家族や医療連携室と電話で情報交換を行い、連携を図りながら早期退院に向け支援している。退院前には電話で連絡を密にし、入院中の状況はタブレットの「介護記録」や「申し送りノート」で情報共有を図っている。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、情報共有と退院後の適切な支援に活かしている。

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する指針の説明を行い、重度化した場合にも再度主治医と面談を実施し、看取りに向けて支援を行っております。また、職員に負担にならないよう配慮しております。	契約時に「重度化・看取り対応指針」に沿って、医療機関との連携体制や看取り対応に関する事業所の方針を丁寧に説明し同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医が面談して状況説明を行い、事業所からもできること・できないことを説明し、意向の確認を行っている。看取り介護の意向があれば、「看取り介護についての同意書」で同意を得ている。主治医・看護師と連携を密にとりながら、家族の意向に沿った支援に取り組み、家族対応や支援についての経過は介護記録で共有している。毎年、年間研修予定表に「看取りについて」研修を盛り込み継続的に実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議・外部研修に参加し、AEDの設置も完了しております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・定期的な消防設備点検を実施しております。自然災害に対しても訓練行っております。	令和2年度は2回、昼間・夜間想定消防総合訓練と、1回水害訓練(垂直移動避難訓練)を実施している。訓練には参加可能な利用者は参加し、また、できるだけ多くの職員が参加できるようシフト等を工夫している。訓練内容等については、朝礼で報告している。1階の倉庫に米や缶詰等の備蓄品を3日分程度備蓄し、本社が内容や期限の管理を行っている。	訓練実施後は、「実施報告書」の回覧や会議での報告等により、訓練に参加できなかった職員にも訓練の内容や評価について周知を図ることが望まれます。

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心や自尊心に配慮した声掛けや対応を行い、ご利用者一人一人の尊厳保持・プライバシーの確保を支援しております。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応ができるよう、各ユニットで意識付けを行い、気になる点があれば管理者層から注意喚起・助言を行っている。個人情報に関わる書類は事務所の鍵のかかる書庫で管理し、写真・映像の使用については事業所内掲示と家族への個別写真郵送に限定し、契約時に文書で同意を得る等、プライバシーの確保と個人情報の適切な管理に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定につなげる関りを心掛けております。また、自己の表現が困難な方においては、代弁機能としてその人になりきった対応を行っております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症ケアとして、規則正しい生活は必要ですが一人一人の生活ペースと意向を把握して利用者本位のケア提供に努めております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、身だしなみやおしゃれの支援を行っております。			

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットで利用者の状態に合わせてアレンジして作っております。調理の際の匂いや音など五感に働きかけております。	本社作成の献立を参考にしながら、各ユニットで利用者の希望や嗜好に配慮した手作りの食事を提供している。献立に、季節感や行事食を採り入れ、また、検食結果や日ごろの様子を献立や調理法に反映させている。利用者の希望に応じて調理法をアレンジしたり、個別の食事形態にも対応している。中庭の菜園で収穫したオクラ・トマト等季節の野菜も食材に活用している。利用者個々の力量や特性を活かしながら、テーブル拭き・食器洗い・下ごしらえ等に参加する場面づくりを工夫している。職員も介助後同じ食事をとり、家庭的な雰囲気を大切にしている。通常は外食や喫茶を楽しむ機会を設けているが、令和2年度はお弁当を発注したり、誕生日をケーキや希望の献立で祝う等工夫している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は食事形態に工夫しながら対応しております。特に水分は、1500cc/日を目標に支援しております。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、起床時と就寝時の他、毎食後口腔ケアを実施しております。必要時に応じて、訪問歯科診療を受けて頂いております。		

川西ケアセンターそよ風

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立は自尊心の自立と考え、排泄表を用いてトイレでの排泄が行えるよう支援しております。	タブレット記録や排泄チェック表で排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや誘導を行い、基本的には昼間はトイレでの排泄・排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は安眠に配慮し、利用者個々の状況に応じて対応している。「介護援助計画表」で、利用者個々の排泄介助についての詳細な手順や留意点を共有している。利用者の状況に変化があれば、介護支援専門員への報告や毎月のユニット会議での情報共有をもとに、現状に適した介助方法や排泄用品の検討を行い、介護計画やケアに反映している。誘導時や介助時の声かけや対応に留意し、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量1500cc/日を目標に、お通じに効果ある食事や飲み物を提供、体操などで自然排便を促すと共に、訪問看護とも連携しながら便秘予防と対応に努めております。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、信頼関係を築く貴重な時間と考え、清潔保持の目的のみにならないよう配慮しております。お湯は都度入替え、機械浴も設置し重度化にも対応しております。	週2回の入浴を基本とし、タブレット記録で入浴状況を把握している。体調や気分、その日の予定等に応じて臨機応変に個別対応している。広い浴室での個浴で、一人ひとり更湯にし、その人のペースでゆっくり入浴できるように支援している。同性介助の希望があれば同性で対応し、入浴を嫌がる利用者には、理由の把握に努め、時間・声掛け・職員変更等の工夫を行っている。ゆず湯等で季節感を採り入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。また、1階には機械浴を設置し、利用者の状況に応じて対応している。	

川西ケアセンターそよ風

自己 第3者	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の調節、職員の声トーン、寝具などの就寝環境に配慮し、安心して眠って頂けるよう支援しております。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・訪問看護師・薬剤師・介護士の多職種協働で支援に努め、症状の変化など確認に努めております。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、個々にあった役割意識を持って頂くよう関りを行っております。趣味活動の提案も行っております。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ影響により外出できておりません。ベランダにて外気に触れる時間を設けるよう配慮しております。	例年は年間行事計画を立て、外出行事として初詣・バラ園・紅葉狩り・外食・ドライブ・京都大文字見学等、利用者個々の状況に応じて外出を楽しめる機会づくりを支援している。令和2年度は外出が困難な状況であるが、感染防止に配慮しながら、駐車場や近隣への散歩に出かけたり、花見ドライブの機会を設ける等、可能な範囲で外出支援に努めている。また、菜園での水やりや野菜の収穫、中庭での外気浴等、戸外で気分転換できる機会づくりに努めている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に書面で同意を交わし、管理方法の統一しております。毎月、領収書と出納帳コピーをご家族様にお渡ししております。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	センター内電話にて交流を支援しております。暑中見舞いや年賀状など字が書ける方にはお願いしております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン温度調整や加湿器設置して快適に過ごせるよう配慮しています。生活感、季節感を取り入れた装飾などや馴染みの曲を流したり居心地の良く過ごして頂けるよう配慮しております。	温湿度管理や換気に配慮し、感染防止と快適な生活が送れるよう環境整備に努めている。利用者と共に制作した季節感のある作品をホールに飾り、季節感が感じられるよう工夫している。キッチンから調理の音や匂いが感じられ、利用者が食事の準備や後片付け・洗濯物たたみ等に参加し、生活感が感じられる。テーブル席・ソファ席を各ユニットの状況や動線を考慮して配置し、利用者が安全に居心地よく過ごせるよう配慮している。長い廊下に手すりが設置され、安全に移動でき、個別の歩行訓練にも活用している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中でも、利用者同士が適度な距離感が必要と考え机の配置などレイアウトに配慮しております。		
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などお持ち頂いて、落ち着いて生活できるよう工夫しているとともに、ご本人の望むレイアウトに配慮しております。	広い居室にクローゼット・カウンターテーブル・ベッド等を設置している。利用者の状況や生活習慣等に沿って、畳に布団を敷いている居室もある。たんすなど使い慣れた家具や、仏壇・テレビ・ラジオなど馴染みの物が持ち込まれており、家族と協力しながら、居心地よく過ごせるよう支援している。ドライフラワー・スタンド式アルバム等を飾っている人もあり、その人らしさが感じられる。利用者担当職員を設け、掃除・整理整頓、また、家族と相談しながら衣替え支援等を行っている。居室前に写真と名前を掲示し、場所間違いの防止に努めている。	

川西ケアセンターそよ風

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に合わせ、生活リハビリを主としながらADLの維持を図っております。		